

# 2013年1月10日(木) 8:00~10:50 後期第11回

・「いいね金沢」動画コンテストのHPで出品作品が公開中

・自分の進路と共にゼミの位置づけも考えましょう

・本日の小咄(担当者:加藤)—「タブレットに動画教材配信」

タブレットを小中学生の家庭教育に生かす動きが活発になっている。肌身離さず持ち歩くタブレットと、質が高くワクワクする教材を組み合わされば放課後、児童が自主的に自宅で学習するはずみだという見込み。また添削の手間や授業の面白み、高額な費用等の問題がこれによって解消される。文科省は「教育の情報化ビジョン」を2011年に策定しており、2020年までに小中学生にタブレットを一人一台ずつ配備し、電子教科書で学べる環境を整える構想を掲げている。かつてパソコン導入時はハード重視の施策だった。しかし中のコンテンツがなかったため活用しきれず、結果は芳しくなかった。しかしハードが整ってきた昨今ではソフト充実により成功を狙う。シンガポールや韓国(IT普及率世界第一位)はIT先進国。BUではon-campusでのオンライン講義履修者が増加傾向にある。しかし一方的なオンライン講義には意味がない。

・本日の小咄(担当者:乾)—「アマゾン IT化の波」

ブラジル北部アマゾン川流域のスルアカという小さな集落でIT化が進んでいる。ネットの導入により生徒の登校率が急上昇し、先生は空き時間に学習教材を探せるようになった。また定期的に派遣される「医療船」は専門医の意見を聞いて治療に容易に反映できるようになった。しかしネットに溢れる「豊かな生活」を求める若者が集落から大量離脱しかねないという懸念がある。

・卒論テーマの現状

大塚:教育 大内:教育 松浦:教育+IT(プレゼン方法) 植原:教育+IT(情報教育)

高橋:医療 IT(情報システム化) 犬伏:医療 IT(ドナー,移植)

森上:MOT(研究開発評価) 中川:MOT(コンカレント,アウトソーシング)

石川:電子書籍(レンタル) 加藤:タブレット or MOT(経営戦略)

小山:(SNS+教育 or 消費者行動) or MOT(研究系統図)

乾:農業+IT(衛星写真)

・論文の基礎

・世の中にA派とB派が存在→研究の存在:議論を○○観点での整理

・Cという問題はITでより効率的になる→システム開発

・過去の論文の「今後の課題」への応答

・ミクロ・マクロ視点で見れば、誰も手を付けていない分野が必ず存在する(≒ブルーオーシャン戦略)

・どういう問題が生じているのか?

Ex.酒井さんの論文:院内感染→感染予防→専門家の不在→感染症のウォッチは上位職員のみで全体共有の機会が少ない→システム開発で早期共有・発見へ

・似た関心の論文を読んで今後の課題を見つける

・努力賞的論文も卒論なら許容範囲

・今後の予定

1月17日オンラインで卒論講評

24日iPad返却—集合時間は後日連絡有。

企画書(テーマ,目的,問題背景,実際の作業/書式自由)をGmailに提出(1月24日締切)

面談予定

1月30日13:00(各1h刻み) 中川・松浦・森上・小山

2月1日9:30(各40min刻み) 大塚・犬伏・石川・大内 13:00(各1h刻み) 加藤・高橋・乾・植原